

ちばけん公民館 スタッフニュース



わがまちじまん!!

1千本の梅が咲き誇る! 坂田城跡梅まつり



横芝光町は千葉県北東部に位置し、国の重要無形民俗文化財に指定されている全国で唯一の古典的仏教劇である「鬼来迎」や太平洋側でサケが回帰する南限とされる「栗山川」が流れる、伝統文化と自然豊かな風土に築かれた町です。

坂田城跡梅まつりは、例年2月下旬から3月中旬にかけて開催されています。会場である坂田城跡の梅林は、坂田城跡梅林組合が梅酒や梅加工品用に出荷している梅であり、観光梅林ではなく、知る人ぞ知る隠れた梅林でしたが、樹齢約50年の巨木が約1,000本もあることから、県内最大級の梅林として関東近県にまで知られるようになりました。凜とした純白の花が一斉に開花した景観は圧巻です。

また、梅林のある「坂田城跡」は室町時代、千葉氏の一族によって築かれた中世の城跡です。いくつかの「くるわ」で構成され、400年以上壊されることなく当時の姿を残す県内でも貴重な城跡です。杉木立の土塁や空堀を過ぎると、見事に手入れされた老木の梅林が少しずつ見えてきます。

梅まつりでは、梅農家の手づくり梅加工品や漬物の販売、土日には町観光まちづくり協会でのイベント開催や菜の花摘み取り体験、町商工会協力による軽食等の販売が行われ、開催期間中には多くの観光客で賑わいます。皆様もご来場してみてください。いかがでしょうか。

第69回千葉県公民館研究大会

平成 29 年 11 月 15 日、千葉市中央区蘇我コミュニティーセンターにて、「地域コミュニティの核となる公民館活動～人づくり、地域づくり、絆づくりをめざして～」をテーマに第 69 回千葉県公民館研究大会が盛大に開催されました。

記念講演では、青山学院大学教育人間科学部教授である鈴木眞理(すずきまこと)先生をお迎えし、「あらためて公民館の役割を考える」をテーマにご講演をいただきました。

第 1 分科会では「公民館運営のあり方」をテーマに 2 市町から発表がありました。

まず、匝瑳市では地域の活性化をめざして多くの人に公民館を体験していただくためには、受講したくなる魅力的な講座が必要であること。鋸南町は、地域住民が生き生きと充実した毎日を過ごせる環境づくりに、公民館がその役割の中心的な存在として寄与すべきだと発表をし、これからの公民館運営について考えました。

第 2 分科会ではテーマ「地域と子どもと公民館」という内容で 2 つの事例発表を行いました。松戸市では家庭教育を重要施策と位置づけ、幼児家庭教育学級・小学校家庭教育学級・中学校家庭教育・家庭教育カフェを紹介しました。木更津市地域子育てセンターゆりかもめでは、相談しやすい環境の工夫・木更津こどもまつりの紹介・挨拶の重要性の紹介をしました。以上の事例を通して地域住民同士との交流促進及び地域社会の絆づくりについて考えました。

第 3 分科会では、「公民館を拠点とした地域づくり」として、地域住民の学習と交流の拠点である公民館の果たすべき役割と可能性について、県内 2 つの公民館からの実践発表を通じて地域課題に対する取り組みについて学びました。グループ討議を通して、それぞれの地域で取り組めそうなことや地域づくりについての話し合いを行いました。

第 4 分科会では、「高齢社会と公民館」をテーマとし、少子高齢社会の中で、地域の生涯学習の拠点である公民館等は、高齢者とどのように関わり、高齢者の知識等を生涯学習に結びつけていくかについて、2 名の発表者から様々な取組等について事例発表がありました。

高齢者対象の公民館事業の募集、運営についてや高齢者の知識を活用した講座づくり、高齢者の幅広いコミュニケーションづくりという視点から特色あるお話を聞くことができました。

第 5 分科会は「歴史・伝統文化の学習と公民館」をテーマとし、加曽利貝塚の国特別史跡指定～貝塚として日本初の特別史跡～を演題に、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課前加曽利貝塚博物館館長飛田正美氏が、日本最大級の加曽利貝塚が持つ、特別史跡に相応しい価値と魅力について語られました。

今後の整備と活用に期待が高まりました。

最後になりましたが、運営にあたられました千葉市公民館連絡協議会の皆様、大変お疲れ様でした。



全国公民館研究集会 分科会報告



平成 29 年 8 月 24 日・25 日に「第 39 回全国公民館研究集会・第 58 回関東甲信越静公民館研究大会」が群馬県前橋市で開催されました。毎年各地で開催されるこの研究集会では、関東ブロックを構成している都・県公連が 1 つずつ分科会運営を担当しています。今回の集会では千葉県公連が「公民館職員の専門性」の分科会を担当しました。

千葉県からは、會澤直也さん（県公連研究委員会前副委員長）が「千葉県内公民館職員の現状と力量形成をめぐる課題」を発表しました。平成 27・28 年度の研究委員会の調査研究を基に、県内公民館の職員や職員研修の現状・課題が報告されました。調査では、研修参加の阻害要因として「職員が少なく公民館を離れることが難しい」「業務が多忙で研修に参加する余裕がない」との回答が多数だったことが紹介されました。また、公民館職員の力量は日々の住民との関わりのなかで培われていく相互発達のものであるので、自らの社会教育実践をふり振り返り検証していく機会や、様々な立場を越えて職員同士がつながっていく研修の場が求められていることが述べられました。

次に、開催地の群馬県からは、藤原直樹さん（前橋市宮城公民館）から「三つの仕掛け 公民館職員のファシリテーター意識を保つために」の発表がありました。前橋市では、教育振興計画において“生涯学習「三つの仕掛け」”を推進するよう定め、この三つの仕掛けの 1 つとして「公民館という仕掛け」を掲げているとのことでした。また、16 の公民館から各館 1 名の職員を選出した研修委員会を組織し事業分野別に担当職員研修を実施。さらに各館の社会教育主事公民館職員によりワーキングチーム研究

会が組織され、毎年、研究検討を経てモデル事業実施や「公民館活動の手引き」などの成果物発行を行い、職員の力量形成を図っているそうです。

最後に、助言者の越村康英先生（千葉大学非常勤講師）から、2 つの報告の整理と今後に向けて以下のような助言をいただきました。

- 公民館職員の研修は法的根拠を持ち、国や県・市町村などの自治体は研修機会充実の努力義務がある。
- 昨今、公民館職員に期待される役割のひとつに地域課題解決学習の組織化と支援がある。これは、公民館の原点ではあるが、今日では、さらにもう一步を求められている。また、地域課題解決学習推進に向けて「住民の中に入り込む」ことが盛んに言われるが、この一点だけでも、非常に高い資質と力量が必要となる。
- 資質や力量を得るために研修が重要なことは言うまでもないが、本質的には、教育に携わる職員としての高いところぞし、人の人生に寄り添う姿勢、自他の権利を尊重できる深い人権意識が必要である。

参加者約 30 名の分科会でしたが、小グループでの意見交換も交えながら非常に活気のある分科会となりました。

さて、2020 年の全国公民館研究集会の開催地は千葉県です。県内公民館が一丸となって全国のみなさんをお迎えしましょう。

報告 中村亮彦

（県公連事務局書記／君津市周南公民館）



日頃の地域学習活動への貢献が評価されました!

館山市中央公民館・船橋市東部公民館・ 多古町コミュニティプラザが、 平成28年度文部科学大臣表彰 「優良公民館」を受賞しました

文部科学省では、全国の公民館のうち、特に事業内容・方法などに工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献している公民館を「優良公民館」として、文部科学大臣が表彰しています。

平成28年度に全国約1万4千の公民館から73館が表彰され、千葉県からは館山市中央公民館・船橋市東部公民館・多古町コミュニティプラザの3館が受賞しました。

各館の活動をご紹介します。

■「まちづくり」「人づくり」の拠点として 館山市中央公民館 ☎0470-23-3111

昭和58年に開館して以来、館山市の「まちづくり」「人づくり」の拠点として活動してきました。現在、約4万8千人の市民を対象に、多様な学習機会を提供しています。館山市は千葉県最南端の市であり、近年都市部からの転入も増えています。恵まれた自然環境をもとめて都市部の大学等の施設も点在しており、それらの大学と連携して専門性の高い講座を展開したり、地域の高等学校や企業と連携したりし

て、事業を行っています。

ふるさと講座は、地域で育まれてきた歴史、豊かな自然、語り継がれてきた人の暮らしをテーマに、地域のことを学ぶ導入的な役割を持つ講座として、年8回程度開催しています。講義のみではなく、現地学習を取り入れながら、わかりやすく地域のことを学ぶことができるようにしています。一例として、近隣市で4年に一度行われる大祭を見学し、座学で得られた知識を現地学習で更に深めることができました。



宮彫りの名工 房州後藤流・初代義光の彫技



白間津大祭と陰陽師伝承

■地域で子育て、親・子・孫の三世代共育ち
船橋市東部公民館 ☎ 047-477-7171

昭和 28 年に船橋市公民館前原分館として設立し、昭和 35 年に東部公民館として開館しました。昭和 52 年に現在の場所に新築開館し、前原東・前原西、中野木をエリアとして活動し、周辺の 5 公民館の中心館となり、地域の社会教育・生涯学習の拠点として活動しています。

現在登録されているサークルは、491 団体、活動回数 6,621 回、延べ参加者数は 113,450 人となって

おり、地域の実態にあわせた様々な活動を展開しています。

東部公民館では、家庭教育のより一層の充実を図るため、「地域で子育て、親・子・孫の三世代共育ち」を目標に、家庭教育支援ボランティア育成に取り組んでいます。東部公民館で活動する子育てに関連する団体で構成された「子育て連絡会」と協働で学習会やイベントを実施しています。家庭教育セミナー「地域でつながる子育て講演会」も「子育て連絡会」の中心団体が実行委員となって講座が実施されました。



平成28年度第2回講演会「子宮で感じる子育て」



第3回講演会「子育てママ向け体操」

■子どもたちの「生きる力」を育む
多古町コミュニティプラザ ☎ 0479-76-7811

多古町には現在公民館がなく、平成 4 年の開館以来、町民の社会教育・生涯学習の拠点として活動してきました。併設の文化ホールでは、コンサート等の主催事業も行っており、文化の拠点にもなっています。

「多古っ子カレッジ」は、学校週 5 日制となり地域社会で子どもたちを育てる事業の一環として、平成 12 年から始まりました。子どもたちが郷土を深

く知り、郷土に誇りと愛情を持てるようにしたい、という願いのもと、そこに関わる地域の大人たちのネットワーク作りを目指しています。「心の教育」の推進、「地域・町づくり」に参画するための環境整備、関係機関・団体との連携による「多彩な体験活動」の実現という 3 つの視点にたち、子どもたちの「生きる力」を育むことを目的としており、自然や産業・文化に関わる活動や、奉仕活動やふれあい活動といった、体験活動を中心に地域の人材と特色を生かしています。



多古っ子カレッジ花植え体験

まちより むらより、

『日本伝統文化を楽しむ～落語を楽しもう～』

旭市海上公民館 ☎0479-55-2566

身振り手振りと話だけで、多くの人を引き付ける日本の伝統芸能「落語」。

最近、アニメなどで若者にも落語に興味を持つ人が増えています。

海上公民館では、日本の伝統的な大衆文化である落語を身近に感じてもらおうと地元出身の落語家桂竹千代さんを招いて、落語イベントを行いました。

初めての方にも興味を持ってもらえるように普段は聞けない落語の世界の仕組みなど興味深い話を楽しくお話いただきました。

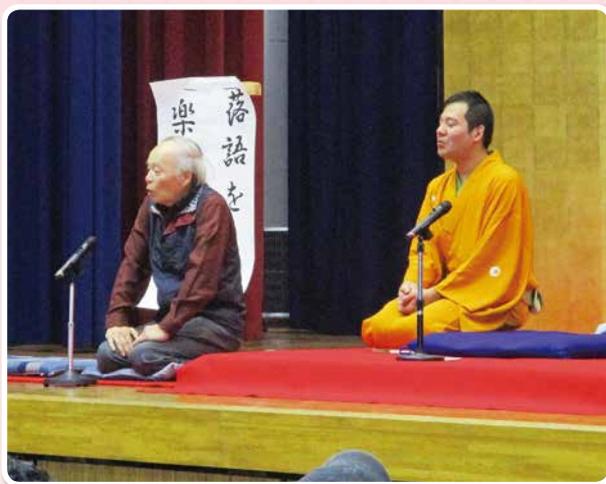
来場者の方には落語での食べる仕草や扇子を利用した表現などを実際に体験してもらい、落語に親しんでいただきました。(写真は落語体験の様子)

後半は桂竹千代さんによる本格的な落語を鑑賞。見事な話術と滑稽な仕草に会場は大笑い。

落語鑑賞は初めてという人の感想は「落語は敷居が高いというイメージがあったが、意外と気軽に聞けて面白かった」「機会があったら、また見に行きたい」など好評でした。

い」など好評でした。

今回の来場者のほとんどは高齢者でしたので、小中学生などの若い世代に広くアピールすることが今後の課題です。



『松戸市公民館文化祭』～素晴らしい作品の数々

松戸市公民館 ☎047-368-1237

松戸市公民館では普段公民館を利用している団体による作品展示として、『松戸市公民館文化祭』を開催しています。今年度は11月2日(木)から11月5日(日)の日程で開催しました。書道・ペン習字・洋画・日本画・陶芸・七宝焼き・鎌倉彫・俳句・茶道と様々なジャンルから出展があります。文化祭当日に備えて年5回の役員会、年2回の実行委員会など入念に準備が進められます。会場設営でも各団体が協力し合っています。出展作品も1年間掛けて(作品によってはそれ以上の時間が掛かるそうです)文化祭のために創りあげます。このように入念な準備をして皆で協力して創りあげた文化祭当日、本当に素晴らしい作品の数々が並びました。

文化祭期間中は、多くの方々が見学に訪れます。それぞれの団体のブースで、出展者の方から説明を受け、楽しそうに話している姿を良く見かけました。見学者が訪れた際には、積極的に話しかけ、楽しんでもらえるよう心掛けていたとの事でした。これも、皆で創りあげた文化祭ならではの一幕だと思います。見学者の方から「本当に素晴らしい文化祭です。

来年もまた来ます！」と楽しそうに声を掛けながらお帰りになったのが印象に残っています。

『松戸市公民館文化祭』は既に来年度に向けて準備を進めています。来年はどのような素晴らしい作品を見ることができるのか、今から楽しみです。



持ちより公民館だより

〜つつむおもてなし〜「ラッピング講座」

印西市立中央公民館 ☎0476-42-2911

住みよさランキング6年連続1位の印西市。しかし、その名に中央とありながら場所は市のはずれに位置し、千葉ニュータウン住民からの認知度がなかなか上がらない我が印西市立中央公民館。高齢者ばかりが足繁く通う施設ではいられないと、今年度の公民館まつり「みなづき祭(サークル懇談会主催)」に目標を定め、若い年齢層からの受講をねらい企画したのが「ラッピング講座」です。

年々その数と共に減少していくサークル展示の穴を埋めるべく、展示できる作品を作る講座を開催しようと、来館者や職員のママ友たちに今何をやってみたいのかりサーチし、いくつかの候補の中から一番関心が高かったのが「ラッピング」。

PR方法も従来のチラシ、ポスター、HPだけでなく、ポスターの隣に見本作品を展示したところ、来館者は必ず足を止め、この講座に興味を示してくれました。

プログラムはプレゼントラッピングから風呂敷で包む方法、きれいな包装紙があれば捨てずに工夫次第で生活のあらゆるシーンで活用できると好評でし

た。

公民館まつりでは「公民館主催事業紹介コーナー」として、この講座の作品を展示したところ、受講者を含め多くの方にお越しいただきました。

サークル懇談会の多大なる尽力もあり、年々増やしている公民館まつりの来場者数も盛況だった前年度をさらに上回り、なんと例年の2倍に増やすことができました。

今後実施して終わらせるという講座から、実施してつなげていく講座づくりを企画、開講していきたいと考えています。



「高齢者同志の交流とふれあいを」シルバースクール

長生村中央公民館 ☎0475-32-3770

長生村中央公民館からご紹介する主催教室は、65歳以上の高齢者を対象とした、シルバースクールです。

家に閉じこもりがちな高齢者同志の交流とふれあい通じ、社会的孤立感の解消と健康保持につながることを目的として実施しています。

毎年3月に連続受講2年間を上限に募集を行っています。45名募集のところ、定員以上の申込みがあり、主催教室の中でも大変人気のある教室となっております。

教室は年6回開催しており、内容は1回の座学と残り5回は公民館バスを使った移動教室を実施しています。

無理なく、楽しみながら学習できるようなものとするため、座学については過去にオレオレ詐欺の講演や認知症サポーター養成講座、今年は健康体操と高齢者を対象としていることから身近に起こり得ることや、運動機能を向上させるようなものを中心に実施しています。

また移動教室についても、関東近県の施設などへ

行き、楽しみながら見聞を広めていただけるような場所へ出向いています。

最近では、茨城県の食と農の科学館で近代農業の現状を勉強したり、防災の日にちなみ、旭市防災館へ赴き、説明員からの説明を熱心に聞き、質問などしていました。

参加者の方々からは座学、移動教室共に好評を得ています。

今後も高齢者のみなさんがシルバースクールを楽しみにし、元気でいきいきと生活していけるような事業としていきたいと思っています。



シリーズ・県内の

元気館

～ちびっこあつまれ～

あかるくたのしくげんきよく！

鋸南町立中央公民館

☎0470-55-4151

鋸南町は千葉県の名峰鋸山の南に位置し、安房地域の玄関口となっています。都内や千葉市から1時間程度の場所に位置している美しい海と山に囲まれた自然豊かな地域です。年間を通し温暖な気候で、12月頃から水仙が、2月から4月にかけては桜が町全体に咲き乱れ、多くの観光客が町を訪れます。

また、見返り美人で有名な浮世絵の祖と言われている菱川師宣は鋸南町出身であり、他にも房総捕鯨の祖である醍醐新兵衛、鎌倉幕府を起こした源頼朝の上陸地、小林一茶、正岡子規などが避暑地として本町を訪れる等、歴史的著名人とも深いつながりをもっている町です。

本町の現状は、少子高齢化、人口減少が急速に進み、最大16,000人いた人口が現在は約8,000人と半減。以前は3校あった小学校は1校に統合され、保育所・幼稚園・小学校・中学校が各1施設となっており、少子高齢化社会や人口減少、それに対する町の活性化や住みやすい町づくりが大きな課題となっています。

鋸南町は昭和58年12月に「わたしたちのふれあい広場」をキャッチコピーとして鋸南町立中央公民館を開館。

開館して34年。



調理室は料理教室や栄養教室、自然食研究など食生活の向上に役立っていましたが、経年劣化のため、従来のように使用できなくなりました。

他の町営施設にも調理室が整備され、公民館調理室は他に転用を検討していました。

現在、公民館のロビー、乳幼児から小学生向けの本が配置してある場所にちびっこ広場が設置してあり、毎日乳幼児と保護者の方が来館します。

公民館で月に1回開催している「親子で遊ぼう仲良し広場」に集う親子やボランティアの方からも安心して常時集える場所がほしいとの要望が出ていました。

鋸南町立中央公民館は、住民のために生活に即する教育・学術・文化に関する各種の事業を行う拠点施設です。

住民の身近な学習・交流の場であり、保護者同士の情報交換や親子のコミュニケーションの場として活用していただけるよう、子育ての拠点の一端を担っています。

そこで、旧調理室を改修し、子育て広場を開設することとなりました。

授乳スペースやおむつ交換台を整備し、子どもの運動機能向上等を目的とした遊具の整備をしました。

1月4日からの開放の前に、12月の親子で遊ぼう仲良し広場を開催したところ、たくさんの方の参加をいただき、好評を得ています。

今後も乳幼児と保護者の交流の場としてたくさんの方の利用をしいていただけるよう努力していきます。

ちばけん公民館
スタッフニュース編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員会
委員長：小高 佳代子(浦安市堀江公民館)発行：千葉県公民館連絡協議会
印刷：エリート情報社